

体育・保健体育における特別支援教育の観点から必要な支援等について

体育・保健体育における資質・能力の育成並びに体育・保健体育の目標の実現を目指し、障害の有無にかかわらず、児童生徒の十分な学びが実現できるようにすることが必要。

課題

- 体育活動による事故を恐れるがあまり、十分な活動(学習)の機会を与えていないのではないか。
- 他の児童生徒との円滑な関係を構築するための指導が十分にされていないのではないか。
- 安易な学習内容の変更や学習活動の代替になっていないか。

改善の方向性

○体育・保健体育の学習の過程において考えられる困難さごとに例を示す。

⇒学習の過程で考えられる【**困難さの状態**】に対する【**配慮の意図**】+【**手立て**】の例を示す。

例：**複雑な動きをしたり、バランスを取ったりすることに困難がある場合**には、**極度の不器用さや動きを組み立てることに苦手さがあることが考えられることから**、**動きを細分化して指導したり、適切に動きを補助しながら行うなどの配慮**をする。